

成東高校同窓会報

「絆」考



同窓会長
清水新次
(高15回)

春色にわかに満ちてまいりましたが、成東九十九同窓会会員の皆様お元気ですか。

昨年は、皆様の御協力、御支援により、観櫻会や職域・地域同窓会の後援、定期総会および講演会の開催、会報の発行などの事業を実施することができました。今年も引き続き諸事業を実施してまいります。

厳しい社会経済状況が続いていますが、心身の疲れを癒し、老化を防止し、毎日を健康で元気に生きてゆくためには、心を許せる友(会員や恩師)との交流、対話が何よりの妙薬になると言われています。

母校で観櫻会が開催された昨年四月七日に高二十一回卒業会員の還暦記念学年同窓会が開催されました。母校の庭に咲く九十九本の満開の桜の花の下で、旧友や恩師との再会を喜びあい、六十歳からの人生の再スタートに新たな元気を得たというお話を伺いました。

このような催しがこれから毎年数多く開催され、多くの会員の「明日を生きる元気の源」たらんことを期待しています。

東日本大震災を契機として、改めて「絆」の大切さが喧伝されていますが、最近それは逆の現象として、同窓会などの催しを開催すると若い人達の参加が年々減少傾向にあるといった幹事さんの嘆きをお聞きました。

成東九十九同窓会会員の私達は、質実剛健、文武両道の校訓のもと、強い絆を共有し、互いに交流、情報交換をしながら助けあって、この厳しい社会を乗り越えてゆきたいものです。

まもなく成高パワーに満ちた九十九本の桜の咲く春が到来します。本年四月六日の観櫻会で多くの会員の方々が再会できることを願うとともに会員の皆様の今後ますますの御活躍、御健勝を心からお祈り致します。

第3号

2013年3月1日

発行
成東九十九同窓会

編集責任者
畑戸輝夫(昭26年)

印刷 (株)サラト

学校規模

クラス数 24クラス
(各学年8クラス)

生徒数 合計975名
男子 509名(52.2%)
女子 466名(47.6%)

卒業生数
合計 27,718名
旧制中学校卒 4,620名
併設中学校卒 545名
新制高等学校卒 22,553名

(平成25年1月1日現在)



漫画家 立原あゆみ氏作品「一年秋」 ペンネーム 立原あゆみ氏より寄贈(本名 市川洋一氏 昭40年卒)

四月七日 春爛漫の観櫻会

平成二十四年は厳しい寒さが長引いて、動き始めない桜前線に気を揉みましたが、暦を四月にめくる頃から北風も治まり、大急ぎで蕾を解き始めた木々が当日は皆様をお迎えできるあでやかさに仕度を調べていたのが印象的でした。



旧校門より



ライトアップに映える桜老樹

晴れの日を迎えた若い有志の意気に拍手が応えます。スタッフの心尽くしの苜蓿を味わいながら校庭を巡り万朶の桜を見上げれば、梢の先まで重なり合う花房が風にしなうさまは物言わぬ桜樹が語りかけ

野の屏の傍らに佇む希少種の存在を初めて知った参加者達は、目を見開いて花の中を覗き込み目を閉じ深呼吸して、あえかな匂いを確かめていました。



観櫻会の太鼓演奏

吹奏楽部の演奏に耳を傾けるうち時刻は午後五時半となり、カウントダウンの声に合わせて百周年記念館前の老樹がライトアップされました。宵闇の中、花びらの一枚一枚が光を受けて幻想的な輝きに包まれた大木はひときわの存在感を放ちます。嘆息を上げて見惚れる人々は、桜とともに幾星霜を重ねてきた本校の年輪の豊かさに思いを馳せていました。

この春は四月六日(土)の開催を予定しています。くわしくは「成東九十九回窓会」のHPもしくは街頭ポスターでお確かめ下さい。人が集うてこそその催し、みなさまのお越しをお待ちしています。

高校二十一回卒業 還暦記念学年同窓会

桜の花の下で旧友と邂逅し、来し方行く末へ思いを巡らすひとときを過ごす：夢的一幕のような浪漫あふれる再会が昨春四月七日の成東高校で実現しました。集う仲間には還暦を迎えた同級生。四十余年の経験に磨かれた風格ある面差しが、懐かしい相手を認めた途端にかつての笑顔に綻んで歓声を上げます。どちらからともなく差し出す手を握り合い、身辺のあれこれを語る言葉に耳傾ける肩には、ひとひらの花。恩師を見つけて、駆け寄る姿も。やんちゃが過ぎて叱られた思い出話に肩をすくめる表情は十代のみずみずしさでこの朝の校庭は花霞の魔法に包まれていました。



往年のE組の顔ぶれ 前列中央は青木慶成先生です

四月六日(土) 午後二時より校庭にて催されます。懇談会は午後四時より山武市の「米作」にて

【幹事長】 寺田龍一

TEL: 090-9674-9454
FAX: 043-444-0981

第107回 九十九同窓会定期総会報告

成東九十九同窓会第百七回定期総会は、八月五日(日)に母校の百周年記念館で行われました。議事は以下の通りです。

○会務報告

- 二十三年八月七日 同窓会百六回総会
- 同 九月十六日 東京九十九同窓会
- 同 一月十三日 九十九同窓会八街支部
- 二十四年一月十一日 千葉県警九十九同窓会
- 同 一月二十一日 千葉県警九十九同窓会
- 同 二月十七日 九十九同窓会大平支部
- 同 三月七日 同窓会入会式
- 同 三月八日 卒業式
- 同 四月七日 観櫻会
- 同 四月七日 高校二十一回卒業・還暦記念学年同窓会
- 同 六月二十八日 同窓会会計監査
同窓会役員会

還暦記念の学年同窓会が、観櫻会に合わせて開催され盛会であったと報告されました。

- 会計・監査報告
- 同窓会会報の発行について
- 講演

齊藤 功氏(高22回)
「風土と文化」―九十九里浜を例として―

「千葉県庁九十九会」開催

県庁勤務の同窓生の親睦の集いが、千葉県庁近くのプラザ菜の花で開催されました。当日は五十余名の会員が出席し、東金市長の志

講演内容の抄録は四頁に掲載してあります。高校時代の恩師の思い出や往時の社会風俗等の逸話が盛り込まれ、興味深いお話をしました。休憩時間には吹奏楽部が発表を行いました。また、記念グッズ販売の趣旨を説明し、協力を募りました。記念撮影の後、市内の「米作」に会場を移して懇親会を行いました。



賀直温氏や武居元三校長の参加も得て和やかに進行し、校歌の斉唱でお開きとなりました。この会は毎年十二月十二日に行われています。会員は年に一度の再会を果たして親睦を深めつつ、行く年を振り返り来る年を迎える、良い機会となっております。

「東京九十九同窓会」より

毎年恒例の東京九十九同窓会が九月十九日開催されました。「つくも」にこだわり、毎年この日に行われます(会場の都合により前後する場合があります)。今回の特別講演は東京九十九同窓会前会長松戸猛氏(アクサ生命保険元会長)による「人間、元気が一番」というタイトルで、成東高校の校訓である、質実剛健をまさに実行してきたお話でした。ユーモア盛り沢山で皆さん大変なごみ、その後の懇親会では美味しい食事とお酒でまたまた盛り上がり、先輩後輩の交流を持った楽しいひと時を過ごしました。近年、東京九十九同窓会は日本工業倶楽部という素晴らしい名譽ある会場で開催されています。東京駅から徒歩2分と交通の便も大変よい所です。これも松戸氏が日本工業倶楽部のメンバーであるために可能となっていることです。だいぶ以前、(十数年前だったと思います)成東高校京葉同窓会という会がありました。最近耳にしなくなりました。そのため東京九十九同窓会がその代わりをすべきであると考えられているところです。同窓会は居住地域を限定せず、出席希望の方々を全て受け入れる体制で、出来るだけ同期の方に声を掛け合っています。

東京九十九同窓会では校歌斉唱をします。十年程前までは二番の歌詞も歌われていましたが現在は一番の歌詞だけです。今後の発展に向けて現在8名の役員で運営しています。最近の出席者は四十〜五十人ですが今後七十人程度の参加を目標としています。

この記をご覧の同窓生で参加を御希望の方は、左記事務局へ八月初め頃に連絡していただければ、折り返し詳細を御案内申し上げます。なお、東京九十九同窓会は例年午後6時から9時頃まで開催されます。たまには雰囲気の変った東京九十九同窓会を味わってみてはいかがでしょうか。どうぞ、御連絡をお待ち申し上げます。

東京九十九同窓会事務局

【会長】市東明義(高15回)

〒1157-0073

東京都世田谷区砧3-5-12

TEL・03-3415-6611

FAX・03-3415-6613

携帯・070-5552-6611

Email: a-shino@mb.biglobe.ne.jp

【幹事長】椎名康雄(高28回)

〒104-0052

東京都中央区月島

TEL・03-6219-5737

FAX・03-6219-5738

携帯・080-1042-4227

Email: shina@ten-inc.co.jp

講演 齊藤 功氏(高22回)

風土と文化——九十九里浜を例として——



からは文学と片貝海水浴場について大いにご教示を得た。古川・中西両先生の教えによってこの町の風土や文化を知り、郷土に対する関心を深めていったといっても過言ではない。

平成七年、地元の俳人故鈴木美好氏からタウン情報紙「CAN」の編集長下條将夫氏を紹介された。意気投合し九十九里を紹介するコラム「酔翁閑話」の執筆となった。気の向くまま食文化・方言・年中行事など主に民俗学的な題材を取り上げて一三〇回ほどに及んだ。私は益々この土地の風土や文化が好きになった。

一 九十九里浜の風土

三方を海に囲まれた千葉県東側沿岸には長大な砂浜の海岸線九十九里浜が存在する。飯岡の刑部(ぎょうぶ)岬からいすみ市太東崎までの約六〇キロの白砂である。この浜に房

総ではお馴染みのかの頼朝の伝説がある。頼朝が家来に命を与え、弓矢をもって浜の長さを測らせたという。百に一つ足らず

の九十九本となった。これを以て爾来「九十九里浜」とか「矢指しヶ浦」とか称したという。なお土地の九十九里高校の校章は、矢羽根が意匠となっている。百から一をとると九十九で「白里」はすなわち九十九里である。この土地出身の文人はこれを以て雅号とした。高名な篆刻家石井雙石、恩師片貝出身の中西三郎先生である。

九十九里平野は一朝に出来たのではない。縄文期以降東金の山と称される丘陵の麓から波の運び来たった砂の堆積が永年かけて作り上げた。これを海退現象と呼ぶ。平野であるが一樣に平坦な土地とはならなかった。海岸線と並行してゆるやかな凸凹となった。凸の部分に集落が出来、凹には水が溜まり水田に利用された。この凹を古川先生

は「バックマーシユ(後背低湿地)」と教えてくれた。ワイシャツの腕をまくって「諸君、九十九里平野は」という姿が彷彿としてくる。東金から海岸までの八キロほどの片貝県道豊海県道を下ると集落と水田が交互に見える。これが海退現象の特徴である。

二 九十九里浜の民俗

一六世紀初頭すなわち戦国期後半海岸から三キロほどの所に

内陸から土豪が住みつき始めた。これが浜の村の草分け百姓となった。江戸期の九十九里浜沿岸集落の主要街道「貝殻道」(現巡検道)の近辺である。以後紀州から伝えられたいわし漁法「地曳網」の隆盛と共に九十九里浜の生活文化が作り上げられていく。

元禄の大津波(一七〇三)以降出稼ぎの紀州漁民に代わって土地の百姓が大網主となっていわし漁を営んだ。漁具の保管の納屋が浜にずらりと並んだ。また砂浜が増えて本の村の次、三男でもある水主が分家して新田を開発し納屋場に住むと集落が出来、村となる。享保から文化文政の頃である。村の名は本家のある村名を付けた。豊海地区では真亀岡・真亀新田・真亀

納屋、片貝では西・西ノ下など親村と子村の関係が成立した。九十九里浜の特徴として海岸沿いの村は、納屋名をもつ集落が多い。これを地理学上「納屋集落」と呼んでいる。村人には公的な苗字はない。だから名前をその家の屋号とした。久左衛門殿はキユウゼンドンである。村内では同姓が多く、屋号は重要な役割を果たした。真亀地区では一から一〇まで数えられるほどである。イツツェンドンか

らトウベドンといった具合である。この呼び方は現在も機能している。

海岸から三、四キロ上がった所でも潮騒が聞こえる。ましてや浜はゆるりとした普通の声では仕事にならない。短い大声が自然と生活の言葉となっていく。九十九里方言の成立である。

元九十九里町誌編集委員長島里八先生(成中四〇回)によると紀州方言と密接な関連があり、さらに江戸町人言葉の流入があった。町の旧町村作田・片貝・豊海地区ではそれぞれ微妙な差異が見られる(『九十九里町誌』各論編下巻)。殊に作田川を隔てた旧鳴浜村の作田は言語文化が片貝・豊海と異なる。大正初期生まれの母が子供の頃耳にした作田弁

あんあまつこがねんこひつた(あの娘が、子供を産んだ)「ひつた」は放(ひ)るのことが。古語が生きている。明治末の父と大正初期の母、共に豊海村生まれの下で育った私は戦後の生まれだが、戦前の豊海言葉を受け継いだ。

あんさー(あのね)・おめ(きみ)・あんで(どうして)・たんごろ(オタマジャクシ)・けつねっば(尻の穴)・ぶつつあく(割る)・こえ(疲れる)等。

昭和四二年、本校に入学した

はじめに

九十九里浜のほぼ中央に位置する九十九里町は、海浜文化都市として九十九里浜の風土から生まれてきた生活の文化や歴史を守り伝えてきた。その一例が先年刊行された『九十九里町誌』総説編と各論編上中下巻、そして「いわし博物館」の開館であった。

この町に生まれ育った私は、当時九十九里町誌編集委員長であった恩師元成東高校地理担当古川力(つとむ)先生のお声掛でその編集に参加させてもらい、委員の先生方から薫陶を受けた。中でも成東高校時代に教えを受けた古典の中西三郎先生

時ジープの渾名を有する地学の佐藤先生から耳慣れぬ「たませ(魂)」なる言葉を聞いた。笑いをこらえるのに苦労した。

道行けばみな顔見知りもの言へば皆国訛りうれし故郷

安部季雄

東金上宿小川屋石材店の碑林のこの歌碑を中西三郎先生が教えてくださった。先生の旧友店主の小川一郎氏(成中一七回)の招きで伺ったことを思い出す。

三 九十九里浜の文化

九十九里浜の文化の要素とし

恩師探訪

加藤時男先生・川島秀臣先生

二〇一二年一〇月一日に初版が発行された『山武の昭和』という写真アルバムをご覧になった方も多いことでしょう。この編集に齊藤功先生が御尽力なさった旨を仄聞して逸話のご披露をお願いしたところ「それなら加藤時男先生と川島秀臣先生をお訪ねなさい」との御回答。そして「木曜日午後はお二人揃って市内殿堂の歴史民俗資料館に御出勤です」とも。まあそんな近くに。ちっとも存じませなんだ。三十年をひとつ飛び越して心はかつての劣等生にもどり、お

て江戸中期以来のいわし漁と明治末期以来の海水浴がある。前者は「いわし文化」、後者は「海水浴文化」を形成した。

江戸時代から近代までいわし漁は日本の木綿栽培を支えてきた。金肥すなわち干鯛(ほしか)、

米粕(しめかす)が木綿栽培を育てたと行ってよい。その中心地が九十九里浜であった。上総国粟生(あお)村の地曳網主飯高家は浦賀まで進出し干鯛問屋を作った。いわし漁で莫大な富みを蓄えた大網主達は、その財で文芸をたしなみ、また江戸

の文化人(文人墨客)をもてなして作品を制作させた。文人達

もこれを善しとし、中にはこの地に永住するものさえ現れた。九十九里町小関妙覺寺境内の文人墓碑群がそれを示している。

対馬の西山翰海、陸奥三春の乾坤八(いぬいこんばち)こと典

医長沼祐達等である。網主も俳句・漢詩に足跡を残した。飯高尚寛総兵衛の俳句漢詩集『瀨陵集(はりようしゅう)』である。一方漁事労働者の船方達は日々の労働から天保の豊漁期に「九十九里大漁節」や「地曳唄」を成立させていった。

時代は降って明治の末期、片貝の薬剤師中西月華(本名忠吉 明治六〇昭和二六)本校元教諭

好奇心に通ずるものなるべし、と。『山武の昭和』についてご教示を願う不肖の弟子の言葉尻まで聞き

ずおぞきどきどきと参上しました。お目にかかつて驚いたのは、お二方のお変わりなきこと。なにしろ三十年です。女子高生が五十女に交際した我が身に比するも失礼なれど、教壇から語りかけて下さった其のかみさながらのお声や表情は、つい「おいしくつに?」と苦手な暗算をしてしまったほど。しかし、それも宜なるかな。知的好奇心の泉からは、汲めども尽きせぬ若き力が湧き出づるのですな。さらなる気付きは、こだわりのないしなやかさこそが知的

もやらず「いや、それより面白いものがあるよ」とお話はあらぬ方へ。あらら。でも、さすがは先生方、あらぬ方ではありませぬ。たぐる手綱のその先から出てくる出てくる、めくるめくお話が。いわば郷土史の千一夜物語。「はあ、ふむ、へえ、ほお」ハ行四段活用の合の手を入れるばかり、聴き手としては気の利かないことすこぶるつきの唐変木ですが、私には至福の午後となりました。その万華鏡の如きお話を今こ

中西三郎先生の尊父は地元の有志と語らって「向上会」を結成し、片貝西ノ下に海水浴無料休憩所を開設。以て来遊客をもてなした。その一方会員の教養のため多方面の文化人を招聘し講演会を開催した。また、片貝海水浴場の知名度が上がるとさらに文化人が来遊した。キリスト

教系の内村鑑三・独人神学者エミール・シルレル、国民新聞社

系の小説家徳富蘆花、早稲田大学系の薄田斬雲・坪内逍遙、正岡子規俳人系の河東碧梧桐・寒川鼠骨などである。特筆すべきは徳富蘆花の大正六年における避暑滞在であり、

『成東町役場日誌』の件はお伝えしなれば。明治二十二年の成東町の成立以来途切れることなく現存する記録は、第一級の郷土史料。憲法発布に始まり、

日清・日露、関東大震災に東京大空襲と激動の近代史が連なる「その中に、今日は成東中学校が運動会を開催、なんて記述があるんだよ」と。書かずともよいそんなことを記録に留めた処に当時の町民が成中へ注いだ熱い視線を感じずにはいられない。そう、語るお声が、熱かった。「すごいだろう、こんなことまで書かれてるんだよ」と、語って下さる眼差し、きらきらし

中西の世話で向上会会合への出席、真亀の天王祭の見物は蘆花をして小説『新春』(大正七刊)にその滞在記を書かした。これによって私たちは九十五年前の祭礼の様子、向上会の会員の活動を如実に知るのである。

【講師紹介】

齊藤 功氏 郷土史研究者

昭和45年卒 高22回

中央大学大学院国史学専攻修士

を修了。昭和52年より千葉県立

高校に勤務。平成11年、千葉県

史料研究財団に勤務。平成24年

3月九十九里高校を最後に定年

退職。現在九十九里郷土研究会

副会長。

さを目の当たりにして実感した、「宝は探すものだ」との教えがこの日の賜物でした。

一葉のお写真も載せないのではお叱りを蒙るやもしれませんが、恩師は照れ屋さんであらせられました。どうぞ記憶の中のお二方から想像を巡らせてみて下さい。それでも物足りないとお思いならば、木曜日の午後に伊藤左千夫の生家のお隣へ。そう、先生方は、山武市の市民講座も御担当です。人気の講座で、すぐ満席になりますから、お申し込みはお早めに。先生方は、今もあなたに語りかけて下さいますよ。

(T)

グローバル化に思う



校長 三居元武

「国際教養学部」を置く大学がある。法政大学は平成二十年、その名も「グローバル教養学部」を設立したが、グローバル化の波を受けて国際教養系統の大学

への期待は高まっている。これらの大学では国際化や異文化関連等様々な分野の横断的学問を推進し、語学教育に力点を置いている。

平成二十四年十一月、国際教養大学理事長兼学長の中嶋峯雄氏の講演「グローバル化と日本の大学」を拝聴した。中嶋氏の講演の概要をいくつか挙げてみる。

機にグローバル化が進展し、大学設置基準の大綱化と大学院の重点化が推進されたことで、教養教育が消滅した。学部空洞化が進んで大学が法人化された一方、グローバル化に対応するため、国際教養教育の必要性が高まった、という。

国際教養大学は秋田空港にほぼ隣接している。三十八ヶ国・地域の百三十大学と提携し、十九ヶ国・地域から百十四人の留学生を迎えている(二〇一二

年四月現在)という。氏はまた、「国際教養大学の挑戦」として、

- ① 授業はすべて英語
- ② 一年間の海外留学が責務
- ③ キャンパスは異文化空間
- ④ 少人数教育と学生中心の施設
- ⑤ 徹底した就職支援
- ⑥ ユニークな入試制度

グローバル化の時代に生きる若者たちへの期待は大きい。彼らは国際社会で生き抜くための力をも身につけてくれるはずである。経済のグローバル化は、一方では貧富の差の拡大、環境破壊、固有文化の衰微といった問題を生じさせたという指摘もある。万民の幸福を図ることは難しい。難しいには違いないが、誰もが応分の幸福を享受できるようになれば、これに勝る喜びはない。手厳しい。

進路・生徒

状況報告



進路指導主事 佐藤公昭
(理数4回・高29回)

「教師体験」は、千葉県の事業「お兄さん・お姉さんに学ぼう」の一環として、本校と成東中、成東東中、成東小、大富小が連携して実施したものです。中学校では、夏期課外授業で教壇に立ち、机間指導等を行って、教科指導の実際を経験しました。小学校では、授業を見学し、給食指導や休み時間の児童との交流などを行い、教諭の補助として一日体験をしました。

本校の卒業生には教職志望が多く、毎年二十名を超える教育実習生を母校として迎え入れています。この「教師体験」にも教職に関心のある生徒が延べ三十三名参加しました。

キャリア教育プログラムとしては、本校同窓生を講師に迎え

る「職業研究講演会」や大学の先生方による「大学模擬講義」を実施しているのですが、いずれも生徒に大変好評で、さまざまな気付きと意欲の向上をもたらししています。今回のインターンシップ型の実践も、社会に出て仕事に就くとはどういうことなのかを生徒自らが体験できるといふ面で、新たな効果が期待できます。

今後とも継続し、さらに他の職業でも実現できれどと考えています。その際には、同窓生の皆様に御支援、御協力いただけましたら、幸いです。

平成24年度大学入試結果 (合格者数)

(平成24年4月現在)

国立大学

大学名	新卒	旧卒
茨城大	8	5
筑波大		1
宇都宮大	1	
埼玉大	1	
千葉大	8	5
東京海洋大	1	
東京芸大	1	
富山山科大	1	
信州大	1	1
京都市大	1	
山口大	1	
宮崎大		1
琉球大	1	
国立大計	25	13

公立大学

大学名	新卒	旧卒
高崎経大	2	
埼玉県立大		1
横浜国立大	3	
都留文科大		2
公立大計	5	3

私立大学 (抜粋)

大学名	新卒	旧卒
青山学院大	7	3
学習院大	1	2

大学名	新卒	旧卒
北里大	3	3
慶応大	1	1
国学院大	12	8
駒澤大	11	7
芝浦工大		4
順天堂大	3	2
上智大		1
成蹊大	2	2
成城大	3	4
専修大	6	7
中央大	9	4
東京女子大	1	
東京農工大	1	
東京理大	5	1
東邦大	17	2
東洋大	22	15
日本大	46	18
日本女子大	2	1
法政大	26	13
明治大	9	11
明治学院大	5	4
立教大	2	6
早稲田大	5	5
同志社大	1	
立命館大	5	
関西大	1	
私立大計	418	180

国際教養大学は、平成24年度の入試結果を公表しました。合格者数は、国立大学25名、公立大学5名、私立大学418名(抜粋)です。

創立百十周年記念グッズ

購入ご協力のお願い

千葉県立成東高等学校は明治三十三年（一九〇〇年）に創立され、平成二十二年に百十周年を迎えました。そこで成東九十九同窓会では、旧制中学校当時の本校の佇まいを偲ぶよすがとなっている旧武道館を、展示を主体とした「歴史館」として改装し同窓生の心の拠りどころとして未長く活用してゆきたいと考えました。

旧武道館は、母校の創立から二十一年目の大正十年十一月に、同窓会や地域の方々の御尽力によって竣工し寄贈されました。学校の新設から、わずか二十年で県および学校へ同窓会が建物を寄付したという前例は、他にありません。本校に寄せられた卒業生や地域の方々の熱い期待を今に伝える、貴重な歴史的建造物なのです。

この意を汲み、本校卒業生の漫画家立原あゆみ氏（市川洋一氏）が、旧武道館を配する情景の原画を描き下ろしてご寄贈下さいました。入学の春から卒業間近な冬までを綴った十二枚の作品には、四季折々の風物と年を追って成長してゆく少年と少女が、詩情豊かに描かれています。皆様にはこの会報の第1頁でもご紹介して参りましたが、原画には彩色

が施されいっそうの鮮やかさで心に残ります。その一学年の、春夏秋冬の四枚を額装にしました。成東高校ならではの記念グッズです。作品の味わいを生かして丁寧に仕上げましたので、未長く母校を身近に感じていただける逸品だと自負しております。同じイラストでクリアファイルと朧もご用意しました。

また、創立まもなく作られて、九十九魂の発露として愛唱されてきた校歌の扇とCDも制作しました。扇面には卒業生の書家宮負一昭氏の揮毫による校歌が躍動しています。CDには本校の新旧の画像も収録しました。

さらに、同窓生の発案により植樹され育まれてきた校庭の九十九本の桜の由来と配置や品種をご紹介します。『桜ガイドマップ&ガイドブック』も編集出版しました。

販売収益は、旧武道館の補修改装費用に充ててゆきたいと考えております。趣旨をご理解の上ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

詳しくは、成東九十九同窓会HPの「ネットショップ」をご覧ください。また、商品カタログ等をご希望の際には、街波通信社あてご連絡下さい。
TEL..0475-53-2732



編集後記

春三月。学校は卒業生の巣立ちを見届ける時節、今年も遠からずその晴れの日が参ります。みなさまも、大切ないくつもの場面を記憶の壁に豊んでお持ちのことでしょう。

総会講演会の縁あつて、編集委員に齊藤功氏を迎えました。同窓生へ情報発信する媒体として、母校をふと懐かしんでいただけ的小冊子として、ゆくゆくは同窓生同士の交流の場としてお役に立てることを目指し、編集に取り組んでおります。とは言うものの草創期にて、話題や内容、配置、文字の大小やインクの色、発行時期に至るまで、まだまだ試行錯誤の段階です。みなさまから御助言・御感想をいただき、育まれながら号を重ねてゆくことが叶いましたら、幸甚です。(T)

成東高校同窓会報編集部

〒289-1326
千葉県山武市成東3596
千葉県立成東高等学校内
TEL..0475-8213171
FAX..0475-8210144

【編集長】

畑戸 輝夫 (高3回)

【編集委員】

齊藤 功 (高22回)
多田 達子 (高35回)
齋正 礼香

(理数33回・高58回)